

**質問** 市長は新型コロナウイルス対策本部長として、陣頭指揮にあたってきたわけだが、これまでの取組み・効果・残された課題を問う。

**市長** 本市においては2月22日に小矢部市新型コロナウイルス感染症対策本部を設置し、健康相談窓口の設置・市主催イベントの中止や延期・小中学校の臨時休校措置・公共施設の休館などについて、これまで14回の対策本部会議の開催し、慎重に感染症対策の協議を重ねてきた。市ホームページや市ケーブルテレビ等において最新の情報を市民の皆さんにお伝えしてきたところである。その一方で、新型コロナウイルス感染症の影響により疲弊した市民生活や経済活動の活性化に向けた取組みを、国・県の経済対策と呼応しながら緊急かつ積極的に、三つの施策を重点に掲げて実施してきた。一つ目は子育て世代に対する支援、二つ目は地域経済の力強い回復に対する支援。三つめは地域医療、福祉に対する支援を行なってまいりたい。

これからの取組みについては、今後、再度感染が拡大する可能性もあることから、長期的な備えに加え、継続的な感染症対策の実践が極めて重要であると考えている。引き続き事態の推移を注視しつつ、国や県などからの情報収集と連携強化に努め、市民の皆様の命と健康を守り、安心の確保のため、市と関係機関が一丸となって新型コロナウイルス感染症対策に取り組んで参りたい。

**質問** 新型コロナウイルス感染症による様々な被害や対策によって、現在進めている「小矢部市第7次総合計画」や「第2期おやベルネサンス総合戦略」に与える影響を問う。

**市長** 令和3年度以降において税収の落ち込み等が懸念されるが、今年度のサマーレビュー及び総合計画のローリングにおいて、令和3年度以降の税収等の一般財源を精査した上で、所要一般財源を正確に見積り、各計画及び戦略に反映させる必要があると考えている。本市の健全財政を維持することが第一であることから、多額の一般財源を必要とする事業については見直しや先送りを判断する局面も有り得ると考えている。

**質問** 今回の補正予算に計上されている「GiGAスクール構想」を実現する上での課題と対策を問う。

**市長** このたびの新型コロナウイルス感染症対策に伴う補正予算において「GiGAスクール構想」の前倒しが示されたことから、令和2年度中に市内小中学校の児童生徒全員を対象に一人一台のタブレット端末を西部することとなり、今回の補正予算にその所要額を計上している。また、タブレット端末の使用に不可欠となる市内小中学校の校内通信ネットワーク整備工事を予定しているところである。

具体的な課題としては、児童生徒用タブレット端末のIPアドレスの不足、学校から直接クラウドサービスに接続するセキュリティを含めたネットワーク環境の切り替えが必要であり、また、全教職員のICT活用教育への対応力育成などが課題となっている。通信ネットワークに関する具体的な対応策については、現在調査研究を急いでいるところであり。また、全教職員のICT活用教育への対応力育成については、本年度市教育センターに、市ICT調査研究委員会を設置し、小学一年生から中学3年生までの9年間を見通した体系的なICT活用策や、授業での具体的活用方法についての研究を進め、その成果を教員に還元する一方、各学校の教職員には県主催のオンライン授業関連の研修を推奨しているところである。